

「反省が教えてくれたこと」

白倉 早苗 (川口地区)



助産師として働くこと30年余り、数ヶ月で定年という私に原稿依頼あった事も、これも何かの縁では。常に病院という大きな組織の中で働いてきた私は、多くの職種と働く中、苦慮したこともあったが安堵する事も数しれず…。

未熟だった助産師を成長させたのは人との出会いであった。感謝される出会いより、あの時は…と思うような出会いの方が私は忘れられない。

私は、ダウン症で生まれた子を抱こうとしない母に「かわいいと思いますか。」と話しかけ、ある時は、死産した子を抱く母をみて「抱っこしてもらい、喜んでますね。」と言葉をかけた。共通して投げ返された言葉は「ふつうに生まれてきた子に、そんなことは言いますか。」という母親たちの怒りともとれる感情の言葉であった。それは、「言葉をかける」ことではなく、時には「沈黙」という時間を共有することを教えてくれた。

また、重複奇形を伴った未熟児を産んだ母が自死したことを知った。産後、数日で退院し、最も関わりの少ない母親こそ、産後のメンタルリスクの最も高い褥婦である事を身に染みるほど教えてくれた。それからはEPDS・心理士の導入と仕組み作りへとつなげた。

現在は、終息が見えないコロナ禍の中で苦慮しつつ、外来で勤務している。「あの時は大変だったね。でも感染を考えるチャンスになったね。」と振り返る時間が来ることを祈願しつつ、次にバトンタッチしていきたい。



お知らせ

【新会員の募集】

助産師会の会員を随時募集しています。

下記ホームページをご覧ください。
<http://mw-saitama.com/>

TEL&FAX : 048-799-3614
E-mail : mw-saitama@royal.ocn.ne.jp
一般社団法人 埼玉県助産師会 事務局

Baby madonna
乳頭キレツのケアに!
赤ちゃんのおムツがぶれにも
天然成分100%
スキンケア指導で人気です!
お産セットに
産科での指導に
産院・母乳育児相談室で
母子訪問指導時に
ベビーバーユマドンナは全乳の母乳をベースにしたスキンケア指導で開発されています。
商品に関するお問い合わせ、ご注文は、
運営指導部事務局(ダイヤル)
TEL.0120-28-2267
【販売元】 埼玉madonna マドンナ株式会社

No. 49

発行：一般社団法人 埼玉県助産師会 編集：広報委員会 発行人：牧岡晴美 印刷：株式会社 ジョイン・システム
事務局：坂東美香 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤2-9-18 TEL&FAX：048-799-3614 E-mail：mw-saitama@royal.ocn.ne.jp

埼玉県助産師会会報



～ 埼玉県助産師会の理念 ～

すべての生命を大切にし、
社会から信頼されるケアを行います

No. 49

2021.9.16
発行



写真提供：安食 明代 助産師 (朝霞地区)

CONTENTS

- 2 会長挨拶
- 3 令和3年度役員紹介 / 埼玉県助産師会通常総会報告
- 4 助産師部会理事挨拶 / 保健指導部会理事挨拶
- 5 勤務助産師部会理事挨拶
研修会報告「思春期保健研究会」
- 6,7 特集「電話相談事業」
- 8 スポットライト「反省が教えてくれたこと」
お知らせ

会 員 数	351名
(2021.9.1 現在)	
助産師部会	50名
保健指導部会	124名
勤務助産師部会	174名
名誉会員	0名
特別会員	3名

【新会員の募集】
助産師会の会員を随時募集しています。
ホームページをご覧ください。
TEL : 048-799-3614
E-mail : mw-saitama@royal.ocn.ne.jp
一般社団法人 埼玉県助産師会 事務局

会長挨拶



ごあいさつ

会長 牧岡晴美

令和3年5月15日に、埼玉県助産師会通常総会が初めてのオンラインで無事開催する事が出来ました。会員の皆様方には、何かと不手際などがあり、御迷惑をお掛けしたことなども多々あったかと思いますが、この場をお借り致しまして、御理解と御協力を賜りました事に深く感謝申し上げます。

昨年より、長引くCOVID-19感染拡大の影響で、医療提供体制がひっ迫する事態に陥りそうな中に、数回に渡り緊急事態宣言の発令や蔓延防止などの重点措置が取られております。世の中が対面や密を避けるために、様々な取り組みやガイドラインを遵守しながら日々、感染防止対策に慎重に活動しており、会員の皆様におかれましても、日頃の生活や業務にもかなりに影響を及ぼしているかとお察しいたします。特に委託業務の縮小や中止による収入の減少はもとより、担当地域の母子環境の把握がしにくくなったことや寄り添う様な関わりができなくなった事は言うまでもありません。妊産婦さんが産前産後のサポート体制も十分でない中で、出産・育児に不安を抱えながらどのように過ごしているのかと懸念致します。

そのような中で、今年度は母子保健法の一部改正に伴い「産後ケア事業」が市町村単位で義務付けられる事になりました。妊娠期から子育て期の大切な時期に、切れ目のない支援の専門家として助産師の役割は益々重要となってまいります。申請書の提出が必要になりますが、希望する妊産婦さんの全てにおいて幅広く対応して頂けるように期待致します。

また、令和2年度埼玉県の予算編成に対する要望で、県内全ての新生児が早期に聴力検査が受けられるように、聴力検査機器と聴力検査に対する助成について要望書の提出をいたしました。今まで一部の市町村でしか助成されていませんでしたが、今年の4月より全ての市町村で助成券が配布される事になりました。助産院での検査も出来る様に聴力検査機器の助成もあり、初めて県と助産院で委託契約書を交わしました事も大きな前進となりました。

助産所部会・保健指導部会・勤務部会、それぞれの立場で活動に御苦労や苦難があるかと思いますが、このような状況だからこそ、我々助産師は、私たちにできる最善を尽くして妊産婦さんの一人一人に深くかわり、精神的な支援をも積極的にしていくことで、健康な次世代へとつないでいけるように、努力をしてゆきたいと強く思います。

一日でも早く平穏な日常が戻ることを願いつつ、埼玉県助産師会一同、日々心を込めて、それぞれの役割を果たして参りたいと思います。



令和3年度 役員紹介

役員				役員			
役職名	氏名	所属部会	所属地区	役職名	氏名	所属部会	所属地区
会長	牧岡晴美	助産所	越谷	監事	瀧田洋子	助産所	越谷
副会長	渡邊薫	勤務助産師	川口	監事	大石智子	保健指導	朝霞
副会長	佐々木美幸	助産所	草加	委員会			
総務理事・事務局	大野幸子	保健指導	川越	委員会名	委員長名	所属部会	所属地区
総務理事	津田ちひろ	勤務助産師	川口	安全対策	北田ひろ代	勤務助産師	所沢
総務理事	高橋律子	勤務助産師	熊谷	教育	渡邊薫	勤務助産師	川口
総務理事	飯島さちこ	保健指導	鴻巣	福祉	小杉山佳代子	助産所	所沢
財務理事	村山祐子	勤務助産師	川越	広報	土井和子	助産所	所沢
財務理事	梅村久美子	保健指導	草加	選挙管理	上林小百合	助産所	さいたま市
財務理事	齋藤恵子	勤務助産師	幸手	災害対策	増子麻里	助産所	さいたま市
助産所部会理事	近藤直子	助産所	川口	渉外	大野幸子	保健指導	川越
保健指導部会理事	横井聖美	保健指導	越谷	100周年記念特別委員会	渡邊薫	勤務助産師	川口
勤務助産師部会理事	高森妙子	勤務助産師	鴻巣				



令和3年度 一般社団法人埼玉県助産師会 通常総会報告

5月15日「令和3年度 一般社団法人埼玉県助産師会通常総会」が開催されました。(会員数 344名・出席60名・委任状 199名・出席者計 259名) 今年度の総会はCOVID-19感染拡大防止のため、初めてのオンライン開催となりました。議事ではオンライン会議ツールの投票機能が用いられ、すべての審議が賛成多数で承認されました。

コロナ禍で多くの活動が制限される中、オンラインによる会議の開催や研修開催、電話相談によるコロナ不安を抱く妊婦への対応等、感染対策に留意しながら各部会・委員会が工夫し、継続した活動を行ったことが報告されました。

財務に関しては、感染対策のための備品購入や通信費の増加による支出の増加がありましたが、オンライン研修会開催による事業収入の増加や会議等の減少に伴う交通費の減少により、結果として収益が上がったことが報告されました。

長引く自粛や行動制限により、地域のつながりが希薄化し支援を受けにくくなっている母子に対し、私たち助産師による切れ目のない援助がますます重要となっていることを再認識しました。また、来年埼玉県助産師会が100周年を迎えるにあたり、特別委員会が発足し記念誌発行の企画が進行していること、記念式典の開催が検討されていることがあげられました。

令和3年度の代議員選挙では、牧岡晴美さん、飯島さちこさん、渡邊薫さん、横井聖美さんの4名が選出されました。

広報委員 西島 由季子(さいたま市地区)



助産所部会担当理事挨拶

助産所部会担当理事 近藤 直子

助産所部会員は現在約50名で、内訳は開業助産師や助産所勤務者等、地域母子支援を中心に活動しており、分娩を取扱う助産所や産前産後のケア等で行政との連携を密にして活動する助産所の存在意義もっています。

近年の少子化問題と、昨年から続くコロナ禍により助産所の分娩件数が減少していますが、経営努力と感染対策を徹底しながら、母子に寄り添うことを優先し、安全な分娩管理、育児相談や産後うつ症状の早期発見等に繋げています。

このように助産師の力を発揮していくために、後輩育成として助産所研修を実施していますが、コロナ禍のため研修は困難でありコロナ禍が収束した後は助産所研修を利用させていただきたいと存じます。

一方で、コロナ禍においても助産師学生の実習や大学の研修生を受け入れています。継続的な関わりや助産技術、日常生活の知恵的な体験も含めて、学びの場を深めています。

さて、助産所や自宅で分娩を引き受ける時に、上の子の立ち会いを希望という理由が多く、立ち会った女の子の中には助産師になりたいと将来の夢を話す子がいます。実際に「助産師学校に受かりました」と連絡を受けて感動したことがあります。吉村先生の著書「幸せなお産が日本を変える」の中から、お産は母子やその家族の生き方を変えることを胸に留め、今後も幸せなお産のために精進を重ねていきたいと思えます。



保健指導部会担当理事挨拶

保健指導部会担当理事 横井 聖美

令和3年度、保健指導部会が目指していること

令和3年度が始まりました。

今年度、総会が初めてオンラインで開催されました。会員が画面上で集い、また、総会資料等も画面上で共有されました。皆さまの顔を拝見しながら、私は、この一年で世の中がずいぶん変わったことを感じました。一年前、私たちが画面上で話をしていることを誰が想像できたでしょうか。私たちは、これからも、起こる変化に合わせて自分たちの振る舞い方を決めていかなければならないのかもしれない。

さて、総会のお場でもお伝えしましたが、今年度、保健指導部会が目指している4つの目標を共有させていただきます。総会に出席されなかった方や、保健指導部会に加入されて間もない方はご一読ください。

一つ目は、「地域母子保健向上に向けた活動」です。皆さまは、日々どのような仕事に従事されているでしょうか。それぞれの自治体が進めている子育て世代包括支援センター事業、産後ケア事業等に、助産師が協力できるよう、部会員のスキルアップを目指します。年始に母子訪問指導者講習会を開催しますので、是非ご参加ください。

二つ目は、「地域における助産師活動状況の把握と支援」です。今年度も部会員一人一人の活動の状況を把握し、必要時、支援を行います。調査へのご協力をお願いします。

三つ目は、「安全対策の促進」です。部会員一人一人が、医療安全管理指針を作成・改定できるよう支援を行います。また、就業形態に合わせた保険への加入を呼びかけます。

四つ目は、「保健指導部会の円滑な部会運営」です。皆さまが所属されている地区の地区代表者を通して、必要な情報を伝達します。活動時に困った場合は、地区代表者に連絡をしてください。地区代表者全体は、グループLINEとメールで情報共有を行っています。

以上が、今年度の4つの目標となります。部会員の皆さまの役に立つ部会運営を目指して参りますので、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。



勤務助産師部会担当理事挨拶

勤務助産師部会担当理事 高森 妙子

「COVID-19感染禍の助産師たち（2）」

新型コロナウイルス（COVID-19）の国内感染者第1例目を発表してから1年6ヶ月経ちました。これまでの累計国内感染者数は82万人以上、亡くなられた方は1.5万人になりました。ワクチン接種が2月17日から行われ、1回以上接種した人は39,379,718人に達しました。（2021年7月14日現在）。総人口の31.0%に当たると言われています。今後は若い人、学童や幼児にも接種が計画されています。しかし、感染拡大は、一向に終息の気配を見せていません。

私たちは、感染拡大当初の不安や不穏の時期から時間が経過し、少しずつ自粛の生活に懸念を抱きつつもなんとか生活してきました。医療機関に勤める助産師、看護師達は大変な努力で、多くの妊産婦や対象になる人々の側に寄り添い、優しいケアに努めてきました。

これまでに経験したことのない人流（人出）を抑制する自粛生活は、所得減少、他者との接触の制限、自宅滞在時間の増加、テレワーク、学校の休校をもたらし、「出会い」「結婚」「出産」というライフステージに影響を及ぼしています。厚労省、人口動態統計速報では、2021年の出生数は、80万人を下回る、と予測しています。又、DVのエスカレート、経済的困難で妊娠確認の遅れ、妊娠継続の葛藤、特定妊婦の増加、10代の妊娠相談の増加等が、妊娠に関する相談を受ける8団体の相談内容調査で明らかになっています。10代の妊娠は、基盤に学習指導要領による性教育の遅れが大きな要因ともいえるでしょう。リプロダクティブヘルスを担う助産師の役割、課題がまた明確になってきています。



研修会報告

月
日

思春期保健研究会

思春期保健事業では、健康長寿課からの委託を受け、思春期保健に関する研究会を年2回以上開催しています。今回は令和2年度第3回研究会「学校で配慮と支援が必要なLGBTsの子どもたち」（オンライン）についてご報告いたします。講師に、宝塚大学看護学部教授の日高庸晴先生をお迎えしました。

平成27年に文部科学省より「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」通知がありました。これにより性の多様性に配慮した取り組みを実践している学校は増加していますが、学校ごとの差が激しいため、当事者の子どもたちの苦悩は顕在化しているものだけでも無数にあります。誰にも相談できず困難を抱えている子の数はさらに多いものと推察できます。私たちは「性と生の健康支援講座」で学校現場に出向き、しばしばその事を感じていました。今回研究会のテーマとしたのはそんな背景からです。

講師の日高先生は当事者を取り巻く環境や課題に関する調査や研究をされております。各種学会のご発表も活発で数多くご著書を出版されています。研究会では、豊富なデータと実践を基にお話し頂きました。具体的に臨場感のあるあつという間の100分間でした。

受講後、アンケートで満足度が高かっただけでなく、早速保健室の掲示物を作成され、子どもたちや他の教職員、保護者の方々への啓蒙となる取り組みを始めた写真付きのメールも頂きました。勉強になっただけでなくすぐに行動に結び付いた実践的内容の意義深い研究会だったと感じています。

思春期保健事業メンバー 櫻井 裕子（朝霞地区）



宝塚大学看護学部 教授
日高 庸晴 先生

「電話相談事業」 ～私たち助産師はここにいます～



① どのような事業ですか？

- 埼玉県助産師会主催の相談と、埼玉県からの委託による電話相談事業を運営しています。
1. 子育て・女性健康支援センター（埼玉県助産師会主催）
 2. 不妊・不育症・妊娠サポートダイヤル事業（埼玉県委託事業）
 3. 「COVID-19感染症に関する妊婦不安相談」（R2年6月～埼玉県委託事業）

☎048-799-3613

詳細はこちらから→



インターネットで情報が得られても「電話」というツールを使って、ご自身のペースで・どこからでも・匿名で・気軽に相談ができるこの事業を「安心して相談できる場所」として長年利用いただいていることに助産師として大変嬉しく思います。男女問わず上記内容の健康相談に対応しています。

さらに2020年を境に世界的なCOVID-19感染蔓延が続き、妊娠・出産・育児の環境も様変わりしました。相談内容はそれまで以上に多岐に涉り、件数も大幅に増加しました。感染者の急激な増加・緊急事態宣言発令・制度の改定など大きなニュースの後には、呼応するかのように相談が舞い込みました。例年よりも1件の相談時間が長いケースが増えたのも特徴的です。

社会全体が不安に包まれ制限がある中、日々の生活や子育ては続いています。以前同様の「誰かに聴いてほしい」という普遍的な相談の場としても機能しており、コロナ禍において「電話相談支援」を休止せず継続できたことは、私たちの誇りであり、相談員の絆も深まりました。相談体制を継続できるよう理事会に配慮いただいたこと、県内各地の自治体・埼玉県健康長寿課の皆様には、HPや広報紙で事業を周知いただいていることに心より感謝申し上げます。



② どのようなメンバーが相談を受けていますか？

各地区から、30～70代の多彩なフィールドをもつ11人の会員が業務にあたっています。生殖医療相談士の有資格者、助産院や介護施設勤務、妊産婦新生児訪問・虐待防止事業訪問に従事、妊娠SOS相談やDV相談、保健所の妊娠出産の電話相談、地域母子保健事業や母体・新生児搬送コーディネーターに関わるなど豊富な経験で、様々な側面から相談に応じることができるメンバーです。

③ 電話相談を担当し難しいと感じたことや、嬉しかったことはありますか？

<難しいこと・悩み>

- ◎話慣れしていなく不安が大きい方だと声が小さくなりがち
- ◎時間がかかっても終われない相談の終わり方、次へのつなぎ
- ◎知識不足というよりも自分自身が落ち着いていないと相手の話が聴けないこと
- ◎どんな相談があるかわからないのでドキドキ
- ◎発熱症状があると簡単に受診できない時期、乳腺炎の方が、新型コロナウイルス感染症県民サポートセンターからの紹介で泣きながらの相談。搾乳方法や赤ちゃんの抱き方・吸わせ方・ホームケアしかお伝えする術がなかったこと



2020年2月1日撮影
(初回緊急事態宣言前)

- ◎怒りや苛立ちの解消につながらず、相談員も落ち込むことが少なからずあること
- <嬉しかったこと>
- ◎辛そうな声から「ばーっ」と明るい声に変わる瞬間
- ◎県外へ転居された後や、海外からもその後の経過を報告くださった時
- ◎他の相談員の記録を読みながら、その対応にこころ震える！



④ 相談を受ける上で心がけていることはなんですか？

相談者が自ら選択できる・意思決定できるように寄り添うこと。気持ちに余裕を持ち冷静にお話を聴くこと。余裕をもって準備し、前日までの相談内容や申し送りに目を通すこと、集積されたエビデンスや最新情報も皆で共有して開始時間に備えています。



⑤ 相談員としての取り組みについて教えてください。

新生児期の赤ちゃんの相談や乳房トラブル・授乳の相談はとて多く、助産師としての本領が発揮できます。ただし、目では確認できないので、お母さんができる対処法は何かあるか・受診を必要とするのか等聞き取り情報での判断力が問われます。切羽詰まったお母さんの背後で赤ちゃんやお父さんが大泣きしていることもあり、安全に配慮することも大切です。

また、不妊治療が長期に及ぶ方は何度もの喪失体験を繰り返していますので、相談がグリーフケアになることもあります。不育症は、原因がわかることもあれば、メカニズムがまだ十分に解明されていない分野でもあります。精神的なストレスを回避することや、医学的な情報をお伝えする他にも、あたたかな気持ちでいたわるような傾聴（テnder・ラビング・ケア）を心がけています。

稀ではありますが、命に関わるような案件もあります。匿名で受けている相談ですが、命の安全を第一に、ご本人が「今必要なところへ」つながれるようお手伝いさせていただくことも私たちの役割です。



2020年11月29日撮影

また、1人で電話対応に当たっているため、判断に迷う時は、メンバーに気軽に相談できるよう連絡体制を整えフォローし合います。さらに、年3回開催している相談員会議では、次の支援に生かせるよう「気になる事例の振り返り」を行います。もやもやしていた気持ちが払拭され、気づかなかった視点を見つけることができ、相談対応の向上や学びの糧となっています。また、相談員が日々の相談に生かせる自己研鑽の場として、親和性の高い研修会への参加を呼びかけています。



2020年11月29日撮影
(撮影時のみマスクを外しています)

⑥ 電話相談事業のアピールをお願いします。

- * 可能な範囲で悩みや不安と一緒に向き合います。ご本人にとって必要な選択・意思決定ができるようお手伝いします。「誰かに聴いてほしい」時に気軽にご相談ください。
- * 助産師としての経験や日々の生活体験が生かせる場です。一緒に相談員として活動しませんか？ご興味がある方は是非ご連絡ください。



電話相談事業主任
高橋 麻里子
(さいたま市地区)

～ 特集記事 完全版のご案内 ～

電話相談事業について、さらに詳しくまとめております。ご興味のある方はこちらから→



会誌掲載ページ

